

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2020/2/28

申請者(リーダー): 氏名 竹中 治堅 職名 教授

リサーチ・プロジェクト名:

(和文)	政治改革以降の政策決定過程と不均一な選挙制度の関係
(英文)	Effect of inconsistency of electoral systems across different levels of administrative units on the policy formulation process in Japan after the political reform of 1994.

期間(yyyy/mm/dd): 2019/11/1 から 2020/3/31 1年間

共同研究者:	氏名	職名	所属機関・部局名	(備考)
共同研究者1	上神 貴佳	教授	國學院大学法学部	
共同研究者2				
共同研究者3				
共同研究者4				
共同研究者5				

リサーチ・プロジェクトの目的

1994年以降の政策決定過程において首相の指導力に対し衆議院、参議院、地方議会の選挙制度の不均一性が及ぼす影響を明らかにすることである。本研究は、選挙制度の不均一性のため首相の追求する政策と国会議員、地方議員が希求する政策の間に乖離があると想定する。さらに首相が政策を実現できるかは当該政策に対する衆議院議員、参議院議員、地方議員の持つ権限に左右されることを示す。その際、本研究は国の政策を①衆議院議員だけで決定できる政策、②国会議員だけで決定できる政策、③地方議員も権限を有する政策に分類し、関係するアクターの数が多いほど、政策の実現の難易度は増すと想定する。以上を示すために国内経済政策、対外経済政策、安全保障政策から事例を選び、事例研究を行う。

研究成果の概要(800字程度):

これまで衆議院、参議院、地方議会の選挙制度のあり方が日本の民主主義の意思決定に対して持つ意味を検証した。すなわち、参議院、地方議会の選挙制度を衆議院のそれと同じくすることで、衆議院の多数派勢力を媒介とする民主的統治に重きを置く構想とするか、選挙制度の不均一を許容しつつ、衆議院に対して参議院、地方議会の自律性を尊重するように選挙制度を配置する権力抑制的な構想とするか、対照的な帰結が導き出される。1994年の政治改革によって衆議院の選挙制度が改められた結果、日本の統治制度は依然に比べればより民主的統治に重きを置く性格を帯びるに至った。しかしながら、現在の三つの議会の選挙制度は大きく異なるため、より権力抑制的な運用が図られていると考えられる。本研究では、衆議院の選挙制度が変更されたことが首相の統治運営に及ぼした影響を依頼人代理人モデルに基づく委任関係の観点から分析し、より民主的統治の性格を帯びるようになったことを示した。中選挙区制度から小選挙区・比例代表並立制に変更されたため、与党衆議院議員が依頼人として代理人である首相の権力行使を抑制することは以前より困難になる一方、首相は依頼人として代理人である閣僚をより強く統制できるようになったためである。しかしながら、参議院が法案を成立させる上で強い権限を持つことため、参議院は首相の権力行使を抑制し、橋本内閣及び小渕内閣が取り組んだ日米ガイドライン関連法案、小泉内閣が取り組んだ郵政民営化法案、福田内閣が取り組んだ新テロ特措法の内容や成立時期に大きな影響を及ぼしたことが明らかになった。また、地方議会は条例制定権を有し、経済規制に対しては大きな影響力を行使しうる場合もあると考えられる。ただ、その憲法上、法律上の根拠については、住宅宿泊事業法のように果たして法律によって地方自治体による規制が授権されている場合に限るのかを含め今後さらに明らかにする必要がある。

研究成果:

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項:

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント(RA)雇用に採択されたプロジェクトについては、RAを雇用したことによって得られた研究成果(例: RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。)を必ず記載してください。

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)
(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。)等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	標題	雑誌名 /所取図書の編者・図書 名・出版者等	巻・号 /章・節	件 発行年	開始 ページ	終了 ページ	査読 (有=1)	0 著 (yes=1)	国際共 著 (yes=1)	DOI	0 オープン アクセス (yes=1)
1 上神貴佳	選挙制度は今までよいか——「總体としての制度改革」の構想	ジュリスト	4月号	2020 (1542)	-	-	-	-	-	-	-
2											
3											
4											
5											

図書:

※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

著者・編者	0件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	3件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1 竹中治堅	議院内閣制と依頼人・代理人関係による首相権力の捉え方	「政治改革以降の政策決定過程と不均一な選挙制度の関係」研究会	2019年11月22日	政策研究大学院大学
2 竹中治堅	Which institutions do you delegate?: an examination of how the Japanese prime minister chooses an agent from different political institutions to delegate policy	福岡大学先端経済研究所セミナー	2020年1月15日	福岡大学
3 Harukata Takenaka	Which institutions do you delegate?: an examination of how the Japanese prime minister chooses an agent from different political institutions to delegate policy	Workshop on Political Change and Policy Change in Japan	2020年2月11日	コロンビア大学 Weatherford East Asian Institute
4				
5				